

令和元年度第1回山内図書館利用者フォーラム 会議録

1. 日 時 令和元年9月11日(水) 10:00~11:30
2. 場 所 山内図書館 やまちゃんおはなしの部屋
3. 出席者 利用者フォーラムメンバー
貞廣代表、横溝委員(欠席)、岡田委員(欠席)、桑原委員(欠席)、松下委員(欠席)、宮崎委員(欠席)、坪内委員、徳榊委員、宮澤委員、西川委員、加藤委員(欠席)

事務局

- 釜田(有隣堂本部/欠席)
古川館長、味元(山内図書館)
小島(三洋装備 欠席)、村田(三洋装備)

4. 案 件

- (1) 横浜市山内図書館平成30年度事業報告
- (2) 横浜市山内図書館令和元年度の事業
- (3) 山内図書館の運営についての自由討議
- (4) 副代表の選出

5. 概要

- (1) 横浜市山内図書館平成30年度事業報告(古川館長)

本年度が指定管理第2クールの最終年にあたることから、第1クール、第2クールの取組を総括して報告。

①施設管理

- ・初年度アンケート調査を実施したところ、トイレの改修の要望が多く、和式便座を洋式に改修。
- ・図書館前庭にウッドデッキを新設。飲食スペース、屋外の読書スペースとして活用されている。
- ・集会室のリニューアル(平成30年度)。壁紙と床のマットを張替、部屋の雰囲気明るくなる。名称も「やまちゃんおはなしの部屋」に変更する。
- ・新聞雑誌架のリニューアル。新聞架をバックナンバーを収めることができるボックスがついたものに変更。また、大きなソファを移動し、一人がけの座席を新たに購

入し、席数を増やす。

- ・館内サインの入替。LED を使用したバックライト付きの掲示板に変更。遠い場所からでも表示が見やすくなる。
- ・調べもの席に座席予約システムを導入。時間制限を設け、使用予定時間が終了したら次の利用者に代わってもらうように変更する。
- ・調べもの席及びパソコン使用席をパーテーション付きの机に変更する。パソコン使用席は2席から4席に席数を増やす。

②バリアフリー

- ・多目的トイレのドアの改修。レールなどを交換、重いドアの開閉がスムーズになる。
- ・車イスの購入 購入時に職員研修を行い、介助の方法を学ぶと共に、実際に試乗し車イスから手の届く書架の高さ等を確認する。
- ・線路側の外階段に手すりを設置して欲しいとの要望があり、手すりをつける。

③広報

- ・キャラクターの活用。マスコットキャラクター「やまちゃん」を広く広報の媒体で活用し、ブログやツイッターはやまちゃんが担当する形をとっている。
- ・web の活用。ホームページ、ブログ、ツイッター、Facebook を活用し広報を行う。それぞれ特徴があるので、使い分けて広報を行う。指定管理が始まったころはホームページを情報源としている人が多かったが、現在はスマホが主流となっているので、スマホに対応したサイトの更新にも力を入れている。

④地域と連携した特徴的な事業

- ・夏のおはなし祭り 山内図書館の代表的な事業。本年も2日間で延べ 1,059 人が参加。
- ・郷土芸能を紹介する講座 本年度は牛込の獅子舞を見学予定。
- ・ご当地カルタ「青葉いろはカルタ」を電子化し、ホームページに掲載。実際に遊ぶことができる。青葉区についての知識を増やす内容になっているおり、授業でも使えるのではないかと、今後、学校にも広く周知していきたい。
- ・「郷土の紙芝居」 新作が増えているので、電子化して iPad で見られるものを増やしていきたい。

⑤書店のノウハウを活かした事業

- ・作家・文化人の講演会 年に1回開催。村上龍氏、林望氏などにご登壇いただく。
- ・絵本のカバーでエコバッグづくり 絵本のカバーを出版社より提供いただき、地区センターのお祭りなどで、子供を対象にしたイベントとしてバッグづくりを行う。

- ・ビブリオバトルの普及 山内図書館で開催したほか、地区センター、コミュニティハウス、地域ケアプラザなどで行う際に出向き、支援を行ってきた。
- ・Life with Reading の普及 Life with Reading は読書に親しむ新しいツールで、読書のコツ、楽しみ方、創造的読書の楽しみなど読書に関する27のキーワードが書かれたカードの中から各人が1枚を選び、読書体験を語るもの。自分の体験をもとに話すことができるので、誰もが参加しやすいものとなっている。小学生向きのカードも近日作成されるとのこと。

⑥学校連携事業

- ・来館型の支援 小学生のまち探検、中学生の職業体験、高校生のインターンシップ、大学生は実習生、中高生のボランティア体験、麻生養護学校の図書館訪問などを受け入れる。
- ・訪問型の支援 山内図書館から出向き環境整備の相談、読み聞かせやブックトークの実演を行う。また、学校司書がボランティアの方に修理講座を行う際の支援を行う。
- ・選書の支援 学校図書館の選書の参考に役立てるため、有隣堂が行なっている優良図書展示の簡略版をやまちゃんおはなしの部屋で開催してきた。ここ2年は実施していない。
- ・司書教諭・学校司書・ボランティアを対象にした講座の開催 やまちゃんおはなしの部屋を会場に読み聞かせや修理講座を開催。
- ・交流の場の創出 学校司書交流会、ボランティア交流会を開催。情報を交換することにより、アイデアの創出や課題解決の場となっている。

(2) 横浜市山内図書館令和元年度の事業（古川館長）

①読書関係団体交流会 青葉区役所と山内図書館で毎年共催。本年度は山内地区センターを会場に10月31日に行う。2部構成で、1部は児童文学作家・渡辺鉄太氏の講演会、2部は交流会を予定。

②青葉おはなしフェスティバル おはなしフェスティバル実行委員会と山内地区センターの共催、山内図書館と青葉区役所は協力。毎年、青葉区内で活動するおはなしボランティアが一堂に介して、一日中おはなし会を行う。20年続けてきた活動で、本年その業績が認められ、文部科学省より「子供の読書活動優秀実践団体」として表彰

を受けた。

③あおば映像・画像ライブラリー 本年度山内図書館が立ち上げたプロジェクト。山内図書館では、古い写真を収集し、ホームページで公開しているが、それを発展させたもの。青葉区内に残る映像資料、特に動画が少ないので、家庭に眠る8mmフィルム等の動画資料を発掘しようと動き出す。所蔵者に呼び掛け、映像を提供してもらい、内容を編集した上でデジタル化をすすめ、貸出が出来るよう取り組んでいる。地域の写真については宮澤高広氏の協力もあり、今年度13枚が新しく追加された。

④玄関前の花壇のリニューアル 東急電鉄が主催する「みど＊リンク」という街の緑化事業に応募。援助を受け、花壇のつつじを抜根し、畑を造成。募集した小学生と一緒に野菜づくりを行った。次年度以降は、図書館を訪れる人が楽しめる庭造りを行っていきたいと考えている。

⑤大人の倶楽部活動 令和2年度以降は「大人の倶楽部活動」と銘打ち、図書館に集まって何か楽しいことをしようと呼びかけ、図書館のサポートや地域に役立つサークル活動を行うグループを立ち上げたいと考えている。

<質疑応答>

・あおば映像・画像ライブラリーは郷土資料を保存していく上で、図書館らしい取組でたいへんよいと思うが、区役所はこの取組に何か関わっているのか。

→現段階では関わっていないが、区政推進課の方から本年度は区政25周年にあたるので事業の一環で使わせて欲しいという依頼があった。打ち合わせに行った際、区政30周年に向けて、映像の収集・編集を行っているの、その際は大々的に取り上げて欲しいと話をしてきた。現在「映像チーム」で手分けして、お祭りを撮影している。スマホで撮影したものでも、映像ソフトで編集加工すると、見られるものとなるので、これから映像資料は増えていくのではないだろうか。

・大人の倶楽部活動というのも面白いのではないか。地区センターも一緒に出来ることをやっていきたい。

→本にでてくる料理、たとえば『ランチのアッコちゃん』の料理をつくることなどできるかもしれない。

(3) 山内図書館の運営についての自由討議

・来年はオリンピックイヤーである。青葉区には日体大を中心にオリンピックをたく

さん輩出しているので、オリンピックと本に関わるイベントをおこなってはどうか。たとえば、過去のオリンピックに苦しいときにこの本から啓発を受けて、競技を続けたとか。オリンピックによるビブリオバトルというのもよいかもしれない。

- ・北京オリンピックに出場したヨットの選手も青葉区在住である。お話を聞いても面白いかもしれない。

- ・日体大フィールズ横浜の選手にトークショーを行ってもらってもよいのではないだろうか。

→オリンピックイヤーに向けて、蔵書はオリンピック関係の本、海外に向けて日本を紹介する本の補強に努めている。

- ・日本にいる外国の方に母国について紹介してもらってはどうか。以前、セネガルの人たちにセネガル料理をつくってもらい、参加者全員で一緒に食べるというイベントを地域ケアプラザで行ったことがある。食を通して文化を知ることできる。地区センターや国際交流ラウンジと協力して、外国の文化や海外からやってきた人と交流できる機会をつくってはどうか。

- ・アルジェリアの人たちがイスラムのラマダン明けの料理「イフタル」を用意してくださったこともあった。その時はテロが続いていた時期だったので、母国を理解してもらうために自分の国のことやイスラム教についても話してくださった。皆さん、国を代表して留学し、日本のトップ企業に就職し、やがては日本で学んだことを母国に持ち帰り国のために尽くそうとしている人たちなので、話を聞いていても刺激を受けた。こういう機会をつくることは青年にも大人にもいい刺激になるのではないだろうか。

- ・状態の悪い本（破れ、書き込みなど）が書架に並んでいることがある。利用者がそういう本を見つけたら、図書館に知らせてもらえるようにできないだろうか。

- ・「本のお助け隊」とか「本のレスキュー」とか、可愛い掲示をつくって「壊れた本に気づいたらカウンターまで持ってきてください」と呼びかけ、壊れた本を教えてもらえるようにしてもよいかもしれない。

- ・子どもも参加してもらえるように届けてくれた子にはシールなど渡してもよいかもしれない。

→高齢者でスマホを持っている方に向けて、図書館の予約ができるようになるまでの講座を行いたいと考えている。

- ・地域に店舗を構えている携帯会社に協力を仰いで、携帯会社が開いているスマホの使い方の講座の中に図書館や公共機関のWEBサイトの使い方も組み込んでもらってはどうか。

- ・山内地区センターで行っている「あおばパソコン横丁」に相談してみてもどうか。

- ・スマホでのパスワードの設定、予約の仕方を、わかりやすく説明したものを館内に貼り出してはどうだろうか。

- ・病院には院内を案内するボランティアガイドがいるが図書館にはいないのか。

→山内図書館では土・日・祝日の3～5時にはスタッフが案内係として立ち、本棚の場所や検索機の使い方などの相談に応じている。

- ・そういう人が常時いてくれると大変助かるのではないだろうか。

- ・レファレンスの機能をもっと紹介してもよいのではないだろうか。

- ・利用者の中にはレファレンスの利用の仕方を知らない人も多いので、これまでに回答したものの事例を交えながらレファレンス機能について紹介してほしい。

- ・今後、施設管理の面ではどのようなことを考えているのか。

→正面玄関の前にある広場のベンチが古くなっているので改修を考えている。車イスで来館した際の導線についても改善策がないか模索している。

(4) 副代表の選出

利用者フォーラムメンバーからの推薦により宮澤高広氏に決定

資料:会議次第